

むくのきだより 7月号



令和6年7月1日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子



夢中になって遊ぶ中で育つ子供たち

園長 中村 美奈子

「園長先生、食べてください！」年少さくら組の子供たちが、自分たちが育て、先生に調理してもらった夏野菜を届けてくれました。「ごちそうさま。おいしかった。」とお皿を返しにいくと、「そうですよ。」「わたしもいっぱい食べたよ。」と嬉しそうな子供たちの笑顔がありました。野菜が苦手な子供も赤羽幼稚園産の野菜は食べられるようです。年長ゆり組の子供たちは、たくさんジャガイモを収穫したのでカレー作りに挑戦しました。八百屋さんに買い物に行ったり、包丁で野菜を切ったり、先生や地域の方々を手伝ってもらい、カレーができました。みんなで作ったカレーの味は、格別だったことでしょう。

先日、港区立飯倉学童クラブ主催の近隣施設・町会・港区関係職員などが集まる地域懇談会に出席しました。その際、「子供の自信につながる遊びについて」ということをテーマに話し合いをしました。「周囲の大人が褒めて自信をもたせる」「得意・不得意があるのが当たり前と考えるようにする」「大人が失敗したのを見せるなど、失敗しても大丈夫という雰囲気をつくる」「検定やイベントなど、子供が挑戦したり役割をもって取り組んだりする場をつくる」など、様々な意見が出ました。私は、「いろいろなことや遊びができる場をつくり、子供が夢中になって取り組む体験ができるようにすること」と話しました。これは、赤羽幼稚園の子供たちを見ていて実感することだからです。夢中になって取り組むことで、好きなことを見つけたり、できなかったことができるようになったり、得意になったりします。また、周りの大人や友達に認められたり、励まされたりする場面も出てきます。それらがやがて自信につながるのではないのでしょうか。

幼児の成長について、幼稚園教育要領の解説には、「幼児は、身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、信頼する教師に支えられながら、物事を最後まで行う体験を重ね、自分の力でやろうとする気持ちをもったり、やり遂げた満足感を味わったりするようになる。5歳児の後半には、遊びや生活の中で様々なことに挑戦し、失敗も繰り返す中で、自分でしなければならないことを自覚するようになる。教師や友達の力を借りたり励まされたりしながら、難しいことでも自分の力でやってみようとして、考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる体験を通して達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。」と述べられています。6月の「赤羽こどもまつり」では、遊びの中で出てきたものをお店にしました。赤羽幼稚園の子供だけで楽しんでいましたが、ひよこっこの未就園の子供たちや近隣保育園の子供たちなど、たくさんの方がお客さんとして来園し、遊びが広がったことで夢中で案内・品出し・接客などしていました。終わった後は、満足感にひたっている表情でした。保護者の皆様や三田地区委員会の皆様、楽しいお店を出してお祭りを盛り上げていただいていたありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

